

宮崎県知事 河野 俊嗣

新年を迎えて



謹んで新年のお喜びを申し上げます。
県民の皆様には、日頃から県政に対する温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、元日の能登半島地震をはじめ、全国で災害が相次ぐ年となりました。本県でも、8月の日向灘を震源とする最大震度6弱の地震では、初めて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたほか、台風第10号に伴う竜巻・突風、10月の線状降水帯による大雨などの災害が相次ぎ、各地で大きな被害が生じました。

被災された皆様に改めてお見舞いを申し上げます。県としましては、一刻も早い漁業経営の再開・再建に向け、被災漁業者の種苗導入や施設の復旧支援、水産物の生産・流通拠点である漁港施設の復旧などを含む補正予算を編成し、支援体制を整備したところであります。

今後とも、更なる県土強靱化や地域防災力の向上など、ハード・ソフト一体となった防災対策に万全を期してまいります。

一方で、パリオリンピックにおける本県ゆかりの選手の活躍や、ひなたサンマリスタジアム宮崎での日向坂46による「ひなたフェス2024」の開催など、県民に元気をもたらす明るい話題も相次ぎました。

水産業につきましても、本県基幹漁業の一つである近海かつお一本釣り漁業において、本県船が2年連続で漁獲高日本一となる快挙を成し遂げました。この勢いが本年も継続することを大いに期待しております。

令和7年度は、県総合計画アクションプランの折り返しの年に当たります。引き続き、今年度から本格展開している「3つの日本一挑戦プロジェクト」＝「子ども・若者」「グリーン成長」「スポーツ観光」を、着実に推進してまいります。

また、物価高騰等の影響が続く中、必要な支援を行うとともに、「国内外との更なる交流拡大」「時代の変化に対応した力強い産業づくり」「安全・安心な暮らしの確保」など、本県の社会経済活動を成長軌道に乗せ、持続可能な未来に向けた基盤づくりを進めてまいります。

特に、水産業におきましては、令和3年度に策定しました第六次宮崎県水産業・漁村振興長期計画（前期計画）の最終年度に当たります。引き続き、担い手、流通販売、資源管理、生産基盤

の4つの視点から対策を講じ、各施策を着実に推進すると同時に、後期計画の策定を進めてまいります。

令和6年1月には、関係機関との連携による水産試験場の機能強化を図るため、水産試験研究体制強化基本計画を策定いたしました。本県水産業の成長産業化の実現に向け、増養殖機能及び研究・教育機能の高度化や運営の合理化など、水産試験場の再編・整備に取り組んでまいります。

さらに、今年度から新たに「海業うみぎょう」の推進に着手しており、今後も漁港・漁村を中心とした地域のにぎわいや雇用の創出、所得向上を図ってまいります。

今後とも、県民の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、漁業者の皆様とともに関係者一丸となって、持続可能な水産業・漁村づくりに全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、県民の皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

